

兵庫労働局発表
令和8年5月28日

[照会先]
兵庫労働局労働基準部安全課
安全課長 洲崎 正博
課長補佐 西脇 省悟
(直通電話) 078 (367) 9152

報道関係者 各位



兵庫県内の「令和7年 労働災害発生状況」について

～ 死亡者数は令和6年より2人減少し29人となりました ～

かなり しんいち

兵庫労働局(局長:金成 真一)では、このたび、兵庫県内の「令和7年 労働災害発生状況」を取りまとめましたので公表します。

令和7年1月から12月までの新型コロナウイルス感染症へのり患を除いた労働災害による死亡者数(以下「死亡者数」という。)は、前年から2人減少し29人となりました。

一方で、休業4日以上死傷者数(以下「死傷者数」という。)は、前年から40人増加し5,262人となりました。

令和8年度は、労働災害の減少に向け、「兵庫第14次労働災害防止推進5か年計画」(令和5年度から令和9年度の5年間)の4年目として、建設現場等における足場等の高所からの墜落・転落災害、陸上貨物運送業において多発している荷役作業中の災害の防止対策の徹底、小売業及び社会福祉施設で多発している労働者の作業行動が起因して発生する転倒や腰痛等(行動災害)による労働災害防止を図るための意識啓発を通じた自主的な安全衛生活動の普及・定着等を重点に取り組みます。

また、全国安全週間(7月1日～7日)とその準備月間(6月1日～30日)では、兵庫労働局、県下労働基準監督署から事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を要請します。

【令和7年労働災害発生状況の分析等の概要】

労働災害発生状況の主な概要

1 死亡者数 ※1

死亡者数は29人（前年比2人減）となりました。

業種別で見ると、多い順で、「製造業」6人（前年比1人減）、「建設業」5人（前年比4人減）、「陸上貨物運送業」4人（前年比増減無）、「商業」4人（前年比4人増）となっています。

「建設業」は5人と前年比で4人減少し、建設業としては過去最少となり、「製造業」（前年比1人減）、「清掃・と畜業」（前年比2人減）でも減少しました。一方で、「商業」が4人と前年比で4人増加し、「保健衛生業」（前年比1人増）でも増加しました。

事故の型別で見ると、多い順で、「交通事故（道路）」7人（前年比1人増）、「墜落・転落」5人（前年比5人減）、「激突され」4人（前年比2人増）、「はさまれ・巻き込まれ」4人（1人増）となっています。

「墜落・転落」（前年比5人減）は減少しましたが、一方で、「交通事故（道路）」（前年比1人増）、「激突され」（前年比2人増）、「はさまれ・巻き込まれ」（1人増）は増加しました。

なお、熱中症による死亡者数は2人（前年比2人増）でした。

【別添 グラフ1、表1、表2 参照】

2 死傷者数 ※2

死傷者数は5,262人（前年比40人・0.8%増）となりました。

(1) 業種別

多い順で見ると、「製造業」1,158人（前年比99人・9.3%増）、「商業」851人（前年比10人・1.2%減）、「保健衛生業」797人（前年比3人・0.4%減）、「陸上貨物運送業」604人（前年比26人・4.1%減）、「接客娯楽業」419人（前年比6人・1.4%減）、「建設業」424人（前年比24人・6.0%増）となっています。

【別添 グラフ2、グラフ3、表3 参照】

(2) 事故の型別

多い順で見ると、「転倒」1,429人（前年比54人・3.9%増）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」788人（前年比50人・6.0%減）、「墜落・転落」779人（前年比32人・4.3%増）、「はさまれ・巻き込まれ」546人（前年比9人・1.7%増）、「交通事故（道路）」351人（前年比30人・9.3%増）となっています。

【別添 表4、グラフ4 参照】

事故の型別ごとに死傷者数が多い業種を順で見ると、「墜落・転落」は、「建設業」が最も多く153人で、次いで多いのが「陸上貨物運送業」145人、「製造業」131人となっており、「転倒」は、「商業」が最も多く303人、次いで「保健衛生業」266人、「製造業」256人となっています。

【別添 表5 参照】

なお、最も多い「転倒」災害を詳しく見ると、73%が50歳以上で発生しており、その中でも、50歳以上の女性が46%を占めています。

【別添 グラフ5 参照】

(3) 年齢別

多い順で見ると、「60歳～」1,571人、「50歳～59歳」1,449人、「40歳～49歳」876人、「20歳～29歳」650人、「30歳～39歳」616人、「～19歳」100人となっています。

【別添 表6、グラフ6 参照】

※1 死亡災害報告をもとに、死亡者数を集計。

※2 事業者から提出される労働者死傷病報告をもとに、死亡者数及び休業4日以上の死傷者数を集計。

なお、これらの件数に通勤中に発生した災害の件数は含まない。

兵庫県内の「令和7年 労働災害発生状況」の分析

目次

1 概況	P 2
2 死亡者数	P 3
(1) 業種別	P 3
(2) 事故の型別	P 4
3 死傷者数	P 4
(1) 業種別	P 4
(2) 事故の型別	P 5
(3) 年齢別	P 7

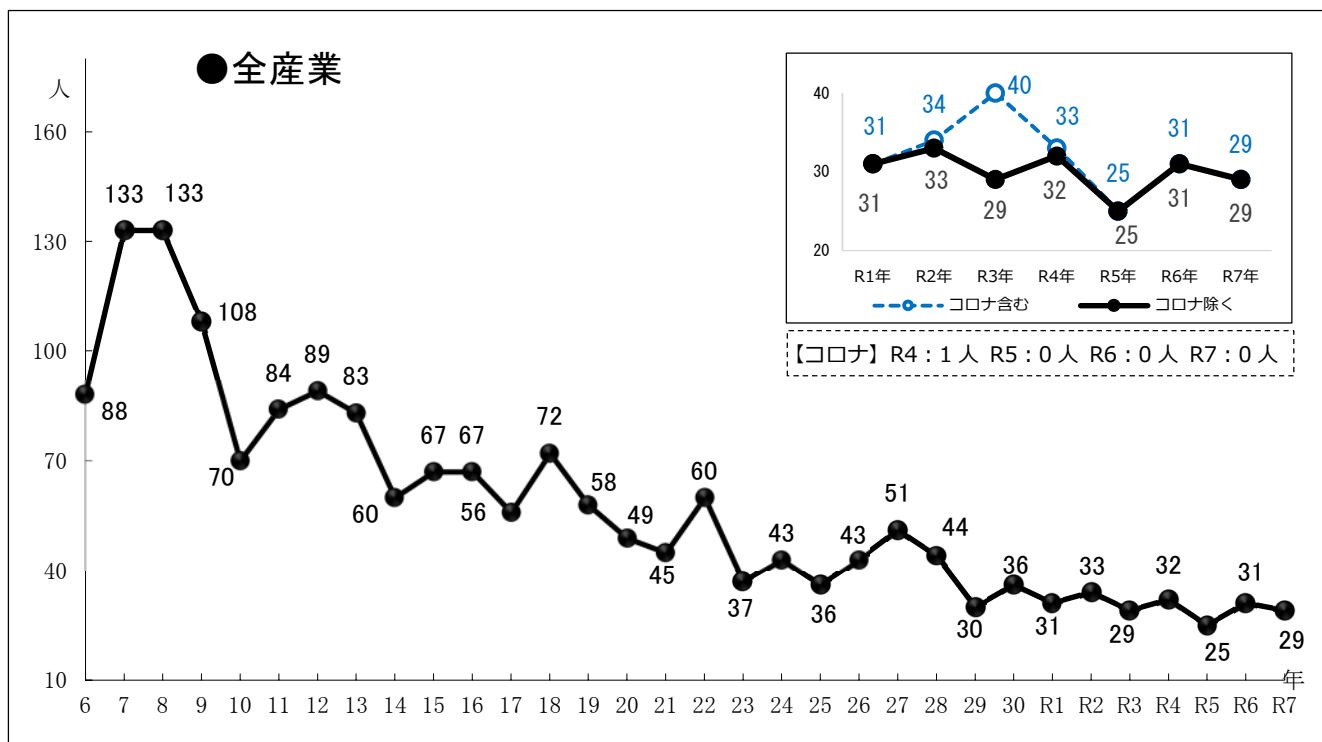
1 概況

令和7年1月から12月までの新型コロナウイルス感染症へのり患（以下「コロナ」という。）を除いた労働災害による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は、29人（前年比2人減）となりました。休業4日以上之死傷者数（以下「死傷者数」という。）は5,262人（前年比40人増）で、令和6年は対前年比減少しましたが、令和7年は増加しました。

令和8年度は、労働災害の減少に向け、「兵庫第14次労働災害防止推進5か年計画」（令和5年度から令和9年度の5年間）の4年目として、建設現場等における足場等の高所からの墜落・転落災害、陸上貨物運送業において多発している荷役作業中の災害の防止対策の徹底、商業及び保健衛生業で多発している労働者の作業行動が起因して発生する転倒や腰痛等（行動災害）による労働災害防止を図るための意識啓発を通じた自主的な安全衛生活動の普及・定着等を重点に取り組みます。

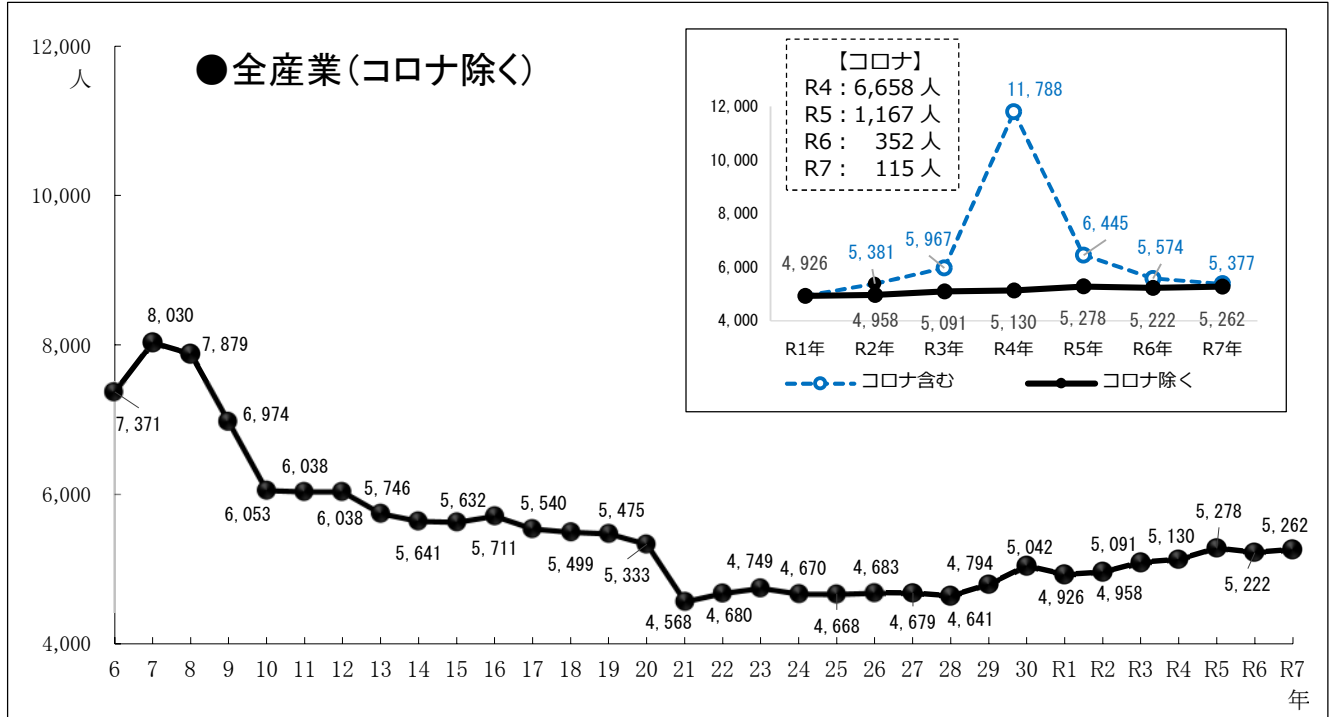
また、全国安全週間（7月1日～7日）とその準備月間（6月1日～30日）では、兵庫労働局、県下労働基準監督署から事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を要請します。

グラフ1 死亡者数の推移



資料出所 死亡災害速報

グラフ2 死傷者数の推移



資料出所 労働者死傷病報告

2 死亡者数

(1) 業種別

死亡者数 29 人を業種別で見ると、多い順で、「製造業」6 人（前年比 1 人減）、「建設業」5 人（前年比 4 人減）、「陸上貨物運送業」4 人（前年比増減無）、「商業」4 人（前年比 4 人増）となっています。

「建設業」は 5 人と前年比で 4 人減少し、建設業としては過去最少となり、「製造業」（前年比 1 人減）、「清掃・と畜業」（前年比 2 人減）でも減少しました。一方で、「商業」が 4 人と前年比で 4 人増加し、「保健衛生業」（前年比 1 人増）、「接客娯楽業」（前年比 1 人増）でも増加しました。

業種別の令和 6 年、令和 7 年の発生状況は、表 1 のとおりです。

表 1 業種別・年別 死亡者数の推移 (人)

	令和 6 年	令和 7 年	令和 6 年 / 令和 7 年	
			増減数 (人)	増減率
全産業	31	29	-2	-6.5%
製造業	7	6	-1	-14.3%
建設業	9	5	-4	-44.4%
陸上貨物運送業	4	4	0	0%
林業	1	1	0	0%
商業	0	4	+4	—
保健衛生業	0	1	+1	—
接客娯楽業	0	1	+1	—
清掃・と畜業	4	2	-2	-50.0%
上記以外の業種	6	5	-1	-16.7%

(2) 事故の型別等

事故の型別で見ると、多い順で、「交通事故（道路）」7人（前年比1人増）、「墜落・転落」5人（前年比5人減）、「激突され」4人（前年比2人増）、「はさまれ・巻き込まれ」4人（前年比1人増）となっています。

「墜落・転落」（前年比5人減）は減少しましたが、一方で、「交通事故（道路）」（前年比1人増）、「激突され」（前年比2人増）、「はさまれ・巻き込まれ」（前年比1人増）は増加しました。

なお、熱中症による死亡者数は2人（前年比2人増）でした。

表2 事故の型別 死亡者数の推移（人） 令和7年の多い順に上位4型

	令和6年	令和7年
交通事故（道路）	6	7
墜落・転落	10	5
激突され	2	4
はさまれ・巻き込まれ	3	4

3 死傷者数

(1) 業種別

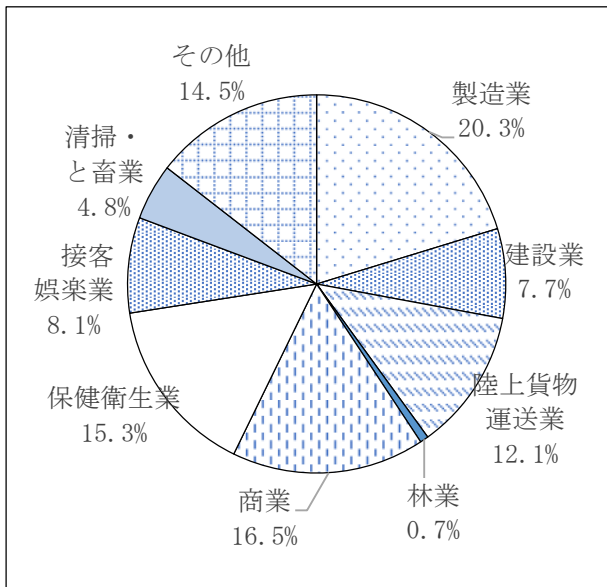
死傷者数5,262人を業種別で見ると、多い順で、「製造業」1,158人（前年比99人・9.3%増）、「商業」851人（前年比10人・1.2%減）、「保健衛生業」797人（前年比3人・0.4%減）、「陸上貨物運送業」604人（前年比26人・4.1%減）、「建設業」424人（前年比24人・6.0%増）、「接客娯楽業」419人（前年比6人・1.4%減）となっています。

表3 業種別（主要業種）死傷者数の推移（人）

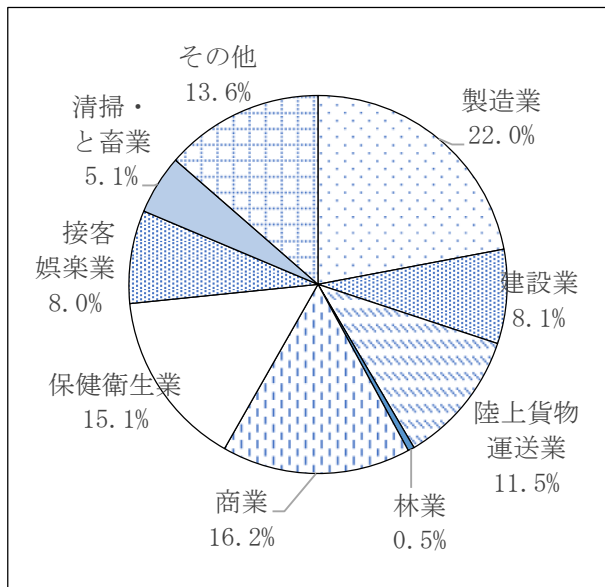
	令和6年	令和7年	令和6年／令和7年	
			増減数（人）	増減率
全産業	5,222	5,262	+40	+0.8%
製造業	1,059	1,158	+99	+9.3%
建設業	400	424	+24	+6.0%
陸上貨物運送業	630	604	-26	-4.1%
林業	38	28	-10	-26.3%
商業	861	851	-10	-1.2%
保健衛生業	800	797	-3	-0.4%
接客娯楽業	425	419	-6	-1.4%
清掃・と畜業	252	266	+14	+5.6%
上記以外の業種	757	715	-42	-5.5%

グラフ3 業種別（主要業種）死傷者数の構成比

【令和6年】



【令和7年】



(2) 事故の型別

死傷者数を事故の型別で見ると、多い順で、「転倒」1,429人（前年比54人・3.9%増）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」788人（前年比50人・6.0%減）、「墜落・転落」779人（前年比32人・4.3%増）、「はさまれ・巻き込まれ」546人（前年比9人・1.7%増）、「交通事故（道路）」351人（前年比30人・9.3%増）となっています。

事故の型別による業種別の死傷者数が多い順でみますと、「墜落・転落」は、「建設業」が最も多く153人で、次いで多いのが「陸上貨物運送業」145人、「製造業」131人となっており、「転倒」は、「商業」が最も多く303人、次いで「保健衛生業」266人、「製造業」256人となっています。

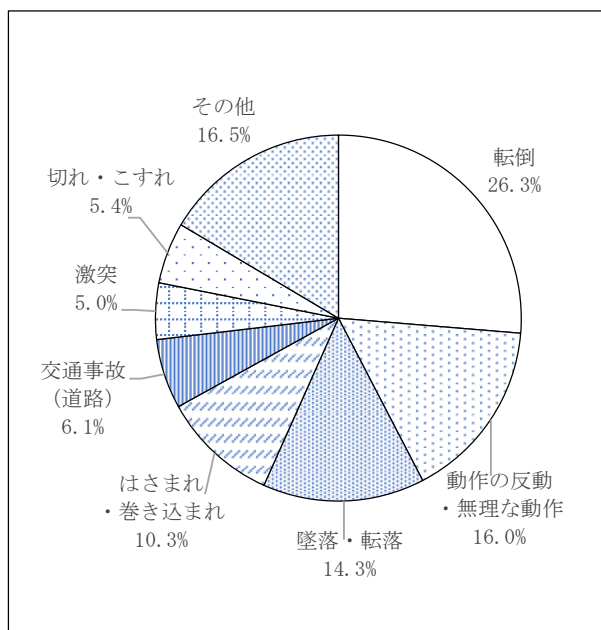
なお、最も多い「転倒」災害を詳しく見ると、73%が50歳以上で発生しており、その中でも、50歳以上の女性が46%を占めています。

表4 事故の型別 死傷者数、対前年増減率 令和7年の多い順に上位5型

	事故の型	死傷者数（人）		令和6年／令和7年	
		令和6年	令和7年	増減数（人）	増減率
1	転倒	1,375	1,429	+54	+3.9%
2	動作の反動・無理な動作	838	788	-50	-6.0%
3	墜落・転落	747	779	+32	+4.3%
4	はさまれ・巻き込まれ	537	546	+9	+1.7%
5	交通事故（道路）	321	351	+30	+9.3%

グラフ4 事故の型別 死傷者数の構成比

(令和6年)



(令和7年)

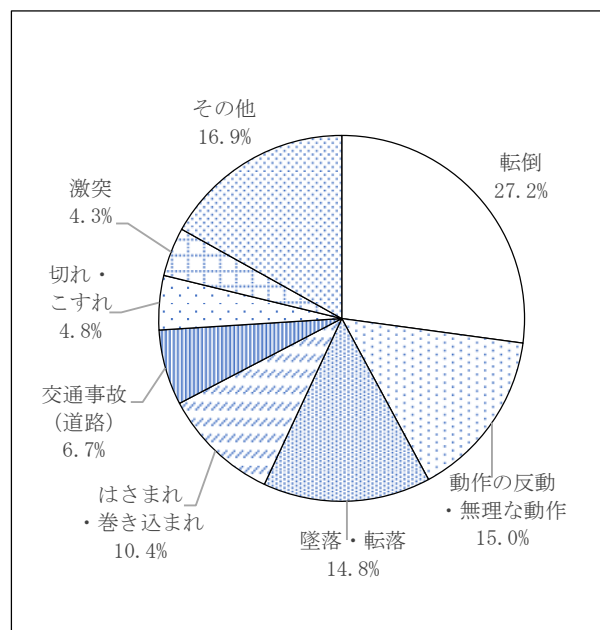


表5 事故の型別による業種別の死傷者数発生状況 (令和7年の多い順に上位5業種)

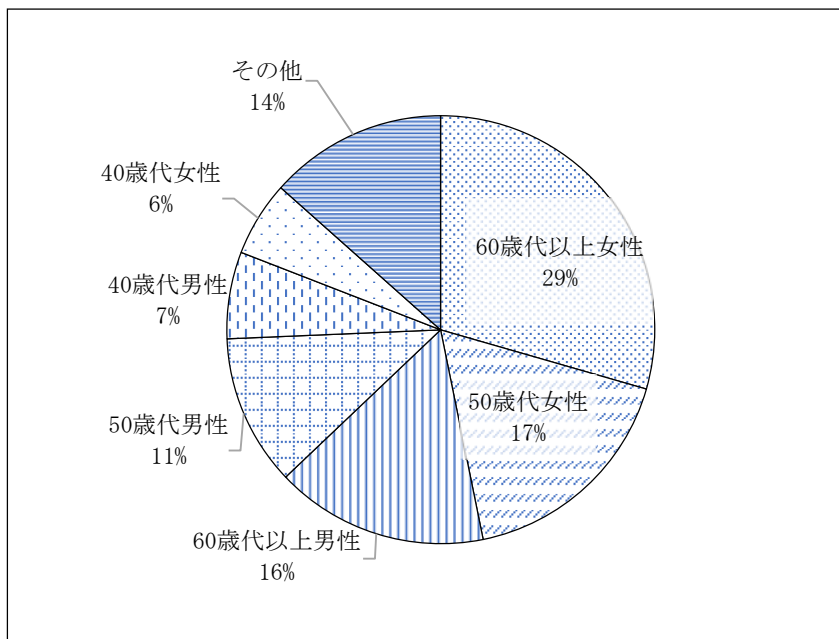
墜落・転落	令和6年	令和7年
全産業	747	779
建設業	130	153
陸上貨物運送業	148	145
製造業	122	131
商業	98	104
清掃・と畜業	44	53

転倒	令和6年	令和7年
全産業	1,375	1,429
商業	268	303
保健衛生業	281	266
製造業	216	256
接客娯楽業	121	135
陸上貨物運送業	131	112

はさまれ・巻き込まれ	令和6年	令和7年
全産業	537	546
製造業	260	282
商業	72	60
陸上貨物運送業	66	56
建設業	35	55
清掃・と畜業	23	29

動作の反動・無理な動作	令和6年	令和7年
全産業	838	788
保健衛生業	271	265
商業	132	132
製造業	101	109
陸上貨物運送業	106	98
接客娯楽業	39	36

グラフ5 事故の型（転倒災害）における性別一年代別 死傷者数の構成比（令和7年）



(3) 年齢別

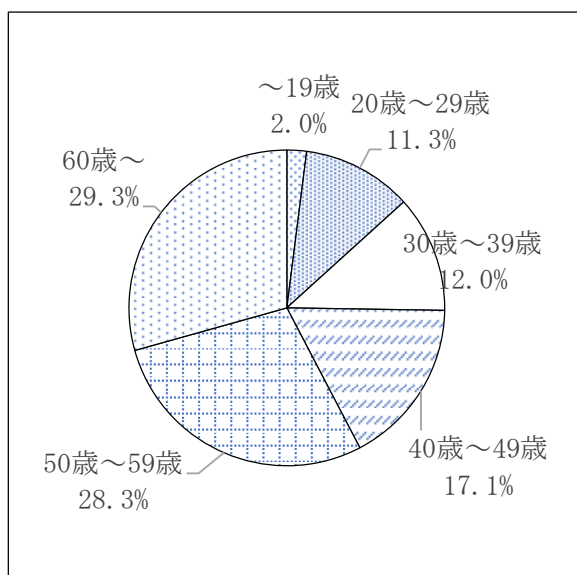
死傷者数を年齢別で見ると、多い順で、「60歳～」1,571人、「50歳～59歳」1,449人、「40歳～49歳」876人、「20歳～29歳」650人、「30歳～39歳」616人、「～19歳」100人となっています。

表6 年齢別 死傷者数、構成比、対前年増減率

	死傷者数（人）		令和7年 構成比	令和6年／令和7年	
	令和6年	令和7年		増減数（人）	増減率
総数	5,222	5,262	100.0%	+40	+0.8%
60歳～	1,532	1,571	29.9%	+39	+2.5%
50歳～59歳	1,480	1,449	27.5%	-31	-2.1%
40歳～49歳	891	876	16.6%	-15	-1.7%
30歳～39歳	625	616	11.7%	-9	-1.4%
20歳～29歳	589	650	12.4%	+61	+10.4%
～19歳	105	100	1.9%	-5	-4.8%

グラフ6 年齢別 死傷者数の構成比

【令和6年】



【令和7年】

